

大学の世界展開力強化事業（ロシア）採択校連絡会 情報共有シート

1. 基本情報

構想名	日露の大学間連携による災害・被ばく医療科学分野におけるリーダー育成事業
大学名	長崎大学、福島県立医科大学
担当部署	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 学術・管理課（管理担当）
コンタクト先	学術・管理課(管理担当) 主査 川原 久和 e-mail: kei_med@ml.nagasaki-u.ac.jp 〒852-8523 長崎市坂本1-12-4 TEL: 095-819-7007 FAX: 095-819-7012

※コンタクト先は、本情報共有シート等において記載された内容等に係る情報交換・問い合わせ等のため、採択大学間で連絡を取り合う際のコンタクト先（メール、TEL等）を記載ください。

2. プロジェクト概要

貴学が取り組まれているプロジェクトの概要についてご記入ください。

<p>本補助事業ではロシア及び日本が持つ放射線災害の経験、教育インフラを糾合し、両国のみならず世界において「放射線災害を含む大規模複合型災害を想定して、災害発生前の防災計画等から、発災期の緊急放射線被ばく医療を含む医療対応とクライシスコミュニケーション、その後の収束期から復興期におけるリスクコミュニケーションや保健活動などをはじめとする種々の災害対応等において、災害サイクルに応じて対応できる人材」の育成を行う。具体的には、長崎大学、福島県立医科大学及び北西医科大学等間で学生を派遣・受入し、放射線生物学、再生医療学、リスクコミュニケーション学及び被ばく影響学といった分野の講義受講により単位の互換を行う。さらに長崎大学・川内村復興推進拠点及び福島県立医科大学において実習に参加する。</p>

3. プロジェクトへの取組状況

下記5点を中心に貴学の取組状況をご記入ください。

ロシア側大学との調整・連携上の課題及び工夫点	本事業に参加する長崎大学、福島県立医科大学、ロシア連邦の北西医科大学、ペラルーシ共和国のペラルーシ医科大学、ゴメリ医科大学でカリキュラム委員会、学生交流委員会を構成し、ネット会議等を通じて随時連絡調整を行うほか、各参加機関の学長、理事長よりなる運営会議によってそれらの活動を適宜審議、承認していく。
教育システム上の取り組み（学年歴、カリキュラム、学位認定、単位互換、単位認定、成績評価等、教育の質の保証に関する留意点、調整・取組状況）	学生の派遣・受入の中心となる長崎大学災害・被ばく医療科学専攻では、平成30年度より秋入学とすることを決定済み。 英語開講科目については、集中講義により実施しているため、短期（1ヶ月）の留学生の受入に対応可能。 単位取得に際してはUMAPのUCTS単位互換制度を採用する予定。
プログラムの実施における特筆すべき成果	すでに、参加機関は人材育成についての協議を開始しており、平成30年1月には北西医科大学において、「社会医学セミナー」を開催し、長崎大学、福島県立医科大学と北西医科大学の教員による講義を行い、長崎大学、北西医科大学の修士、博士課程の学生が英語による講義に参加した。さらに2月には第一回運営会議を長崎大学で行う予定である。
危機管理への対策	海外へ渡航する場合は、渡航（旅行）情報管理を徹底するため海外渡航システムへ登録すること、海外旅行保険へ加入することを義務付けている。さらに、海外へ渡航する学生数の増加に伴うさまざまなトラブルに対応するため、留学生危機管理サービス（OSSMA - オスマ）を導入している。 緊急時には、指導教員及び「チェルノブイリ分子疫学調査研究プロジェクト拠点」と国際教育リエゾン機構が連携し、対応できる体制を整備する。
補助金終了後を見据えた今後の展望・方向性	ダブル・ディグリー制度については、既存の大学院のカリキュラムと融合するため、実施大学において、全て英語での授業の受講や海外での修学を経験できる国際的なコースとして発展させることが考えられる。 経費面については、渡航費については原則自費負担とするが、日本学生支援機構（JASSO）などの各種奨学金や本学独自の奨学金制度を活用し、できるだけ負担軽減を図る。会議等については、テレビ会議システムなど通信設備を活用することにより、継続して実施できる体制を整備する。

4. プラットフォーム構築事業への要望等

本事業を推進するにあたり、ご意見・ご要望等ございましたらご記入ください。

--